

本会の動き

2019年度部会活動貢献賞 (部会CT賞)

The Award for Distinguished Service to SCEJ Divisional Activity

[部会CT賞表彰にあたって] (上宮成之 部会CT長)

化学工学会では、基盤技術分野として6部会および展開技術部会として8部会がそれぞれ横糸および縦糸として各学問分野での専門家集団を形成し、その分野の学会代表として積極的な活動を行っております。また、国際的にも我が国の研究者集団の代表として国際シンポジウムの開催を行う等、積極的に寄与しております。このような部会活動は部会員の皆様の御努力によって支えられておりますが、特に若手会員の不断の貢献に因るものが大であります。この貢献に少しでも報いるべく2010年度より部会活動貢献賞として部会CT賞が設けられました。貢献された個人のみならずグループも表彰の対象となります。本年度は10回目の表彰となり、企画、運営等の部会活動の活性化に大きく貢献された以下の2名の方を受賞者として選定しました。

受賞者への表彰は、2020年9月にオンライン開催されました第51回秋季大会2日目の式典にて行われました。受賞者のこれまでの献身的な貢献に感謝するとともに、今後も部会を始め化学工学会の諸活動に御支援賜りたく、ここにお願ひ申し上げる次第でございます。

最後に、この度受賞されました2名の方に、心よりお祝いを申し上げます。

(以下、受賞者五十音順)

分離プロセス部会における部会活動の活性化および 効率化への顕著な貢献

田中 孝徳 氏 (大阪電気通信大学)

【分離プロセス部会】

田中孝徳氏は、分離プロセス部会の役員として、平成27年度から平成30年度まで固液分離分科会担当幹事、平成29年度、平成30年度は部会庶務幹事を兼務しました。この間、部会行事の企画・運営を通して部会の活性化に尽力され、APCChE2019では、ポスターセッションに実行委員として参画し、APCChEポスターセッションの活性化に貢献されました。また、部会庶務幹事としての業務・活動の経験から、現在の部会活動に即した規則の改訂、化学工学会全体の業務の効率化のための提言を行い、部会活動および学会業務の効率化に対しても継続的に顕著な貢献をされてきました。以下に具体的な内容を記します。

1. 部会活動の活性化・会員増強に関する事項として、同氏は企業の研究者・技術者の学会活動への参加を増やすことが部会ならびに学会の活性化のために重要であるとの観点から、庶務幹事の

任期中に、分離プロセス部会では初となる部会賛助会員の秋季大会等への参加登録や企業ポスターセッションでの発表依頼を各オーガナイザーと協力して積極的に実施しました。今後、企業の研究者・技術者がより容易に学会に参加できることになり、学会ならびに部会の活性化に資するものと期待されます。また、部会独自のニュースレターの編集発行を行い、部会の動きを部会員に効果的に周知しました。

2. 国際会議の運営に関連する事項として、同氏の庶務幹事の任期中に開催された、化学工学会第83年会 国際シンポジウム：K-3 先端バイオマテリアルとバイオ分子膜における新展開では広報活動と招待講演者へのサポートなどの裏方の仕事を献身的に行うことによりオーガナイザーのサポートを行いました。APCChE2019では、ポスターセッションの実行委員として分離プロセス部会を代表して参画するとともに、分離プロセス部会主催のSession 4 “Separation Processes” の運営に関して5つのSub session間の3日間に跨る発表プログラムの調整等でChief Organizerをサポートしました。また、分離プロセス部会独自の表彰制度を提案し、学生会員の国際会議発表への取り組みを支援するとともに、APCChEポスターセッション全体の活性化に貢献しました。

3. その他、庶務活動における貢献に関連する事項として、約600名の部会員のメーリングリストを整備し、学会の行事、部会の行事をタイムリーに周知するとともに、「分離プロセス基礎講座」、「最新技術講座」、「講演および見学会」などの部会行事の企画に関わり、参加者の募集・取りまとめを行いました。また、これらに関連する会計業務も担当されました。一方、部会の規約・細則を現在の活動内容に合ったものにする改訂を幹事会および総会にて提案し、実現させました。さらに、部会の継続審査に際し、過去8年間にわたる部会活動を詳細に総括するとともに、自己点検書の作成に中心的役割を果たしました。田中氏が庶務幹事として活動中の部会CT・部会長合同会議の一つの議題として、事務作業の効率化を図るために、部会の事務局機能を集約・委託することが話し合われました。同氏は化学工学会事務局長ならびに部会担当者と面会し、部会庶務幹事を務めた経験から化学工学会全体の効率化のための提言を行いました。具体的には「統一化された事務業務マニュアルの作成依頼」、「予算と決算のフォーマットの矛盾点の指摘」、「源泉徴収の毎月の支払フローの問題点の指摘」などを行い、本部にて検討していただいているところです。

上記に加えて、分離プロセス部会固液分離分科会では、平成27年度から平成30年度まで固液分離分科会担当幹事を務めています。その間に年鑑の執筆など、分科会レベルの広報活動でも大き



田中 孝徳 氏

な貢献があります。

このように、田中氏は国際会議の運営に関連する事項としてAPCChE2019および国際シンポジウムのサポート、活性化・庶務活動・広報活動に関連する事項として、イベントの企画および周知、ニュースレターの発行など、部会の継続的な発展に顕著な貢献があり、献身的に部会活動を支えていただきました。さらに、その経験を部会活動の活性化・効率化に活かすため、積極的に提言をしていただきました。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。

**化学工学会材料・界面部会における国際会議運営と
部会活動活性化への貢献**

田巻 孝敬 氏(東京工業大学)

【材料・界面部会】

田巻 孝敬 氏は材料・界面部会において、[1] 国際会議12th Japan-Korea Symposium on Materials and Interfaces、およびAPCChE2019特別セッションの運営、[2] 部会横断型の活動、[3] 部会の庶務活動における貢献を通して、部会活動の活性化に顕著に貢献してこられました。

[1]国際会議運営

Japan-Korea Symposium on Materials and Interfacesは、当部会および韓国化学工学会材料部会（Materials Division of KICHe）が共同で開催している国際シンポジウムであり、材料、界面に関する研究に従事している日韓の研究者の研究の進展と人的交流の促進を目的として、隔年で日本と韓国で交互に開催しているものです。2016年に静岡県御殿場市で開催された12th Japan-Korea Symposium on Materials and Interfacesにおいて、田巻氏はProgram Committeeとして予算管理や要旨集作成、招待講演者の諸手続きを始め、会議の運営・事務局活動において中心的なメンバーの一人として貢献をされました。また、2018年に韓国釜山で開催された13th Japan-Korea Symposium on Materials and InterfacesにおいてもProgram Committeeを務められ、韓国化学工学会材料部会との交流促進に貢献されています。

さらに田巻氏は、2019年に開催された18th Asian Pacific Confederation of Chemical Engineering Congress (APCChE 2019)において、材料・界面部会が共催部会の一つとなっている特別セッション“Materials and systems engineering for electrical energy devices —fuel cell, battery, solar cell, and energy carriers—”でSession Organizerを務められ、海外からのKeynote speakerの選定やポスターセッションの運営など、セッションの企画・運営に多大な貢献をされています。

[2]部会横断型の活動

材料・界面部会では、部会横断型シンポジウムを部会活動の活性化の一つの柱と位置づけ、他部会との交流や活発な連携を図っています。田巻氏は、当部会がエネルギー部会、反応工学部会と共催している秋季大会の部会横断型シンポジウムにおいて、2010年（第42回秋季大会）「次世代エネルギーデバイスおよびその関連技術—材料・プロセス・システム—」から2018年（第50回秋季大会）「電池・エネルギー変換・貯蔵技術の新展開—ナノからマクロ、材

料からシステムまで—」に至るまで、継続して毎年オーガナイザーを務められており、2017年のシンポジウム（第49回秋季大会）「電池・エネルギー変換・貯蔵の最前線—材料からシステムまで—」では、主オーガナイザーを担当され、招待講演者の選定や諸手続き、プログラム編成、ポスターセッションの運営、学生賞の審査・表彰、自由討論の司会など、多大な貢献をされました。また、2016年のシンポジウム（第48回秋季大会）「電池・電気化学エネルギー変換とその未来—創る・造る・活かす化学工学の貢献—」では、当部会内の塗布技術分科会の協力を得てミニセッション「電池と電極形成プロセス技術」を開催するなど、部会内ネットワークと他部会との連携も積極的に進められました。この連携は、化学工学会関東支部が主催し、本部会が共催した最近の化学工学講習会67「進化する燃料電池・二次電池—反応・構造・製造技術の基礎と未来社会を支える電池技術—」の開催、および専門書「最近の化学工学67進化する燃料電池・二次電池」の発行にも展開し、田巻氏は同講習会の講師や専門書の執筆者も務められています。

[3]部会の庶務活動

田巻氏は2015・2016年度に材料・界面部会の庶務担当(事務局)を務められ、山口猛央元部会長（東京工業大学）のもと、部会運営の取りまとめ、部会主催行事の運営や補助、部会員への継続的なメール配信による情報発信を行い、庶務活動において大きな貢献をされました。当部会では部会主催の行事として共通基盤技術シンポジウムを開催し、部会員にとって共通の核となる課題を認識するとともに、産業界との連携を図っています。田巻氏は2016年に東京で開催された共通基盤技術シンポジウム2016において、部会庶務担当として実行委員会に加わり、講演者の諸手続きや会場・交流会の準備等を行い、企業から83名、学側を合わせて167名の参加者を集めて盛会となったシンポジウムの運営で多大な貢献をされました。また、庶務担当期間中に開催された部会若手研究者主催の材料化学システム工学討論会や、秋季大会の材料・界面部会主催の部会シンポジウムの運営補助等でも部会活動へ貢献されています。

以上のように、田巻孝敬氏は[1]国際会議の運営を通じた国際交流への貢献、[2]部会横断型の活動による他部会との交流・連携の促進、さらに[3]部会の庶務活動を通して、部会活動の活性化に顕著な貢献をされています。

以上の理由により、部会CT賞の受賞に相応しいと認められました。



右：田巻 孝敬 氏
左：上宮 成之 部会CT長

(岐阜大学 上宮成之, 名古屋工業大学 森 秀樹,
東京理科大学 庄野 厚)